

## 亜鉛含有製剤投与群と非投与群の比較

医療法人衆和会 長崎腎病院

○増田直子 江藤りか 渡部さゆり 小嶺真耶 矢野未来 澤瀬健次 舩越 哲

### 【目的】

透析患者は亜鉛不足の状態であると言われている。そこで当院の透析患者の亜鉛値の分布を亜鉛含有製剤のポラブレジンク投与群と非投与群のパラメータを比較する。

### 【方法】

2020年1月～10月に血清亜鉛値を測定した透析患者158名(平均年齢71.4才、平均透析歴6.4年)においてポラブレジンク投与(25名)の影響について「亜鉛欠乏症の診療指針」をもとに分類比較する。

### 【結果】

平均血清亜鉛値は、ポラブレジンク投与群  $72.8 \pm 25.2 \mu\text{g/dL}$  と非投与群  $58.8 \pm 19.3 \mu\text{g/dL}$  に比して優位に高かった( $p=0.03$ )。また、投与群:非投与群の亜鉛欠乏症( $60 \mu\text{g/dL}$  未満)32%:65%、潜在的亜鉛欠乏( $60 \sim 80 \mu\text{g/dL}$  未満)32%:23%、基準値内( $80 \mu\text{g/dL}$  以上)36%:11%であった。銅濃度は非投与群で優位に高かった。Hb値、Alb値、GNRI、リン吸着薬の投与においては両群で有意差はなかった。

### 【考察】

透析患者の亜鉛不足に対して、亜鉛含有製剤の投与は有効であることを再確認した。亜鉛の欠乏は味覚異常だけではなく、貧血、骨代謝、耐糖能異常などに影響があると言われている。透析患者の亜鉛値を適切な値に保つことはQOL維持のためにも必要と考える。